



現地で見つけた雪ダルマ



会場の確認と打ち合わせ。
左の写真は設置台



ポスター(右)と女性
会員が作った雪ダ
ルマのグッズ(上)



急ぎょ設置が決まり作成したPR用看板

PR活動に専念

「雪の降らない国の人たちに雪に触れてその冷たさを感じてほしい」という願いを込めてブラジル入りした安平町雪ダルマプロジェクトチームの5名が初めて会場を見ました。日本で想定していたイメージとの違いを感じ、急ぎょPR用の看板の作成を決定。道路に面した8枚の看板の前で立ち止るサンパウロ市民から尋ねられることもしばしばでした。

多忙な日程の中、雪ダルマが保管されている倉庫に行き、マイナス18度で保存している雪の状態を確認しました。

すでに各店にはポスターを配布済で、サンパウロ入りしてから新聞社やテレビ局からの取材にも応じ、ラジオ放送にも生出演し事前の宣伝効果は抜群でした。

ブラジル国内最大のテレビ局グローボも中継に参加。タクシーの中で日系人の運転手に来場を呼びかけたところ、「北海道生まれの親父を連れてぜひ見に行きたい」と快く応じてくれました。

式典に向けて準備開始

当日の会場準備はヒゲマ会の若者たちが担い、記念式典に向けてのカウントダウン。前日は会員の皆さんが夜遅くまで作業と最終打ち合わせが行われ、イベント当日の会場設営は早朝から始まりました。



販売用のグッズを展示



会場の飾りつけ作業を行うメンバー



飲み物販売
コーナーは準備完了



食べ物コーナーも準備完了です